

過去10年間の 光赤天連シンポジウムのサマリー

広島大学 川端弘治（光赤天連 運営委員）

光赤天連シンポジウム テーマ一覧

- 2002/9/26-27 三鷹 将来計画シンポジウム
- 2004/8/25 三鷹 大学の活性化
- (2004/12/25-27 東大 次世代天文学 -大型観測装置とサイエンス -)
- 2005/12/20 三鷹 大学の計画と共同利用研の大型計画の連携
- 2007/2/1 三鷹 光赤外将来計画
- 2007/12/19 三鷹 「スペースから光赤外天文学観測計画～日本の進むべき途は?～」
- 2008/8/21-22 三鷹 地上大型望遠鏡計画:2020年のための決心
- 2009/10/21-22 三鷹 30m地上超大型望遠鏡TMTによる天文学の新展開
- 2010/8/18-20 三鷹 中小口径望遠鏡によるサイエンスとその運用の将来・データ解析の新展開:最先端とアーカイブ活用
- 2011/9/6-7 京大 望遠鏡時間の使い方:共同利用とプロジェクト
- 2012/8/9-10 三鷹 2020年に向けてのロードマップ

太字のものが将来計画関係 2年に一度以上のペースで議論し続けられている

2002/9/26-27 三鷹 将来計画シンポジウム

趣旨: 光天連設立のきっかけとなりました「すばる望遠鏡」も完成し、国立天文台でも光赤外線天文学の次期大型計画が議論され始めました。光赤外線天文学のコミュニティとして長期将来計画を議論する会合を持つのに適当な時期かと存じます。

つきましては、光天連主催・国立天文台共催の、将来計画シンポジウムを開催いたします。日本の光赤外線天文学の長期将来展望を議論するにあたり、様々な大型計画の紹介、...(中略)

- (1) イントロダクション他 観山
- (2) すばるの将来計画 林、谷口
- (3) サイエンスの長期展望 高見、千葉、小久保、釜谷、嶋作、山田、牧野
- (4) 進行中の計画 常田、村上
- (5) 海外の計画の紹介 家、田村、村上
- (6) 大型計画・構想の紹介 **SPICA 中川、JTPF 田村、JASMINE 郷田、
光赤外干渉計 西川、地上大口径 vs. スペース 本原**
- (7) 将来への基礎技術開発 戎崎、海老塚、志岐、宮崎
- (8) 長期計画についての総合討論 高見(英)
パネル討論 大内、戎崎、本原、土居
- (9) 大学の活性化 富田、吉井、佐藤(修)、田中(培)、市川(隆)、長尾
パネル討論 市川(隆)、田中(培)、佐藤(修)、面高、高見(英)

2004/12/25-27 東大

次世代天文学 -大型観測装置とサイエンス-

趣旨: (中略)このシンポジウムは理論懇が中心となり, 光天連(可視光, 赤外線), 宇電懇(電波), VLBI懇談会, 高宇連(X線, γ 線), CRC(宇宙線, 重力波)と共催で開催いたしました。

(中略)さまざまな分野で計画されている大規模観測装置についてまとまって議論を行い, 将来何が大切になりそうかを広い情報を基に真剣に議論する機会を作る。事前に研究分野ごとに設置するサイエンス班によって, 10年後 20年後の研究についての議論を行い, 大規模将来計画によって本当になにがわかるようになるのかを精査し, どういう研究戦略をとっていくべきかについて詳しく検討する。日本のコミュニティー全体として, 相互理解を深めるとともに, 大規模計画を推進していくための基盤となるようにデータを整理することを目標とする。



2007/2/1 三鷹 光赤外将来計画

シンポジウム趣旨説明	吉田(道)
ELT計画の世界情勢、日本の状況	家
京大望遠鏡計画	岩室
TAO計画	本原
光赤外スペース計画の世界情勢	松原
日本の光赤外スペース計画の状況	中川
光赤外将来計画1	
コメント 谷口、山田、田村、東谷、大内	
光赤外将来計画2	
コメント 林(正)、高見、東谷、栗田	

2007/12/19 三鷹

スペースから光赤外天文学観測計画 ～日本の進むべき途は？～

1. あいさつ 山田

2, 3. **次世代赤外線天文衛星SPICA**

中川、田村、松原、片坐、小林(尚)、酒向、塩谷、金田、川田

4. 他のスペース赤外線天文学計画

JASMINE 浅田、郷田

JTPF 西川、田村

惑星観測小型衛星TOPS 上野

小口径超広視野近赤外スペースミッションの検討 岩田

5. 他分野から見たスペース天文学への期待 家、長谷川

2008/8/21-22 三鷹

地上大型望遠鏡計画将来計画： 2020年のための決心

趣旨： 現在、アメリカを中心とした次世代30m光赤外線望遠鏡計画であるTMT (Thirty Meter Telescope) の検討が急ピッチで進んでおり、日本でも参加する具体的な検討が始まっています。本シンポジウムではこのTMTの時代に日本のコミュニティがどのように向かい合っていくのか、積極的な議論を行いたいと思います。

- 1,2 **TMTセッション** 家、高見、臼田、青木(和)、小林(尚)、秋山、岡本／山下、白崎、嶋作、大内、松田、三沢、伊藤(洋)、福江、山下
- 3. **光赤外将来プロジェクト** 南極望遠鏡 市川(隆)、TAO 本原、京大望遠鏡 岩室、広島大観測 川端、SPICA 松原、系外惑星ロードマップ 田村、JASMINE関係山田(良)、WISH 山田(亨)
- 4. **Hyper-SuprimeCamとWF MOS** 浜名、有本、須藤、大内、冨永、中島、安藤、本原

※WF MOSはGeminiコミュニティ主導で計画されたすばる主焦点ファイバー多天体分光器(～PFS) ※2009/5/18-21のSubaru-Gemini Joint Conferenceで突然の撤退表明

まとめ

- 約2年おきに光赤天連シンポジウムで将来大型計画を議論してきた
- 2005年発刊の将来計画検討報告書のほか、TMT参画のサポート、WFMOS推進のサポートなど、大きな流れの醸成に寄与してきた
- 大型計画は10年をゆうに超えるスケール
- しかし情勢は刻々と変化（TMT, WFMOS, TAO, etc.） 議論の継続が必要
- 10年目の節目 とりまとめの報告書を！